
魔法科学の混在世界

カワチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法科学の混在世界

【Nコード】

N1493Z

【作者名】

カワチ

【あらすじ】

魔法が科学技術になった世界。

どこにでもいる普通の少年、黒沢竜也はある日、少女と出会う。そして、いろいろな事件に巻き込まれる。

一話 少女との出会い

「はあゝ　なんで俺がこんなことしなくちゃならねえんだ」

そう言いながら、少年は重そうなダンボールを車の中から家の中に運んでいる。

「仕方ないでしょ　あなたしかいないんだから」

そう言いながら、隣の少女もダンボールを家の中に運んでいる。

なぜ、少年と少女がこんなことをやっているかというと一時間前にさかのぼる。

少年は、ただ食材を買いに近くのスーパーへ向かっていると、そのとき突然、

「ちよつと　その君　手伝ってよ」

と、後ろから声が聞こえたが、気のせいだろうと思い、先に行こうとすると

「その君よ　その黒い髪の君」

声のする方に振り向くと、長髪の少女が立っていた。

「はあゝ　あんた　誰」

「えつと　私は立花美佐」

「そうか　それじゃあ」

「ちよつと　なに立ち去ろうとしてるのよ」

「めんどくさいことはやらない主義なんだ」

「いいじゃないの　ダンボール運ぶだけだから」

「そんなの親にでもやってもらえ」

「親は今いなくてお願い　運ぶだけでいいから」

「はあゝ　わかったわかった　これ以上話したら遅くなる」

「ありがとう　そういえば名前は」

「俺か？　俺は黒沢竜也だ」

というわけで手伝うことになった。

「はあ、なんでこんなに重いんだよ」

「だから 竜也に手伝ってもらったんでしょ」

「そういえば 確かここって空き家だったよな」

「そうよ 今日からこの家に住むことになったの」

「だから ダンボールがいっぱいあるのか とうっかなんで業者に頼まねえんだよ」

「だってお金かかるじゃない」

「そんな理由かよ」

「そうよ なんか悪いわけ」

「はあ、べつに」

黙々とダンボールを運んでいくと、ついに最後の一個が見えてきた。

（はあ、もう少しだ なんて買い物しに來ただけなのにダンボールを運んでんだろ）

そう思い最後の一個を運び終えると、

（はあ、終わった これで スーパーに行ける）

そう思っていた竜也だが

「手伝ってくれたお礼がしたいから ちょっと待ってて」

そう言い家の中に入ってしまった。

（俺は早くスーパーに行きたいだけなのに）

そう思いながら空を見る。

ほとんど日も落ちてすっかり暗くなろうとしていた。

「はい これがお礼」

渡されたのは、いろいろな魚が描かれた小さい箱だった。

「この中に何が入ってたんだよ」

「ただのお菓子だけど」

「お菓子って ダンボール運んだ人にあげるもんかよ」

「文句言わないでよ それしかないんだから」

「ったく わかったよ 早くスーパーに行かねえと」
竜也は、じゃあなと言うとスーパーのほうへと向かっていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1493z/>

魔法科学の混在世界

2011年12月5日09時51分発行